

神奈川 横浜翠嵐 英語 出題傾向と対策

出題傾向の分析

問1はリスニングテスト。昨年同様独自校共通問題で、従来の会話の応答を選ぶ問題・内容理解の問題以外に、地図を見て答える問題が加わりました。それぞれの選択肢が共通問題の3倍ほどの長さのため、聞き取る力に加え読むスピードも要求されています。リスニング以外では問3・問4が独自校共通の問題です。問2は文の正誤問題と語順整序。正誤問題は5つの文から誤った文を2つ選ぶ形式ですが、完答で得点になるので、点が取りにくくなったといえます。問3は読解問題。本文と付随するグラフの両方をきちんと読み取ることが求められています。問4が会話の流れに合うよう短文を書く条件作文。問われている文法事項は基本的なものなので点を落とせない問題です。問5・問6は読解で、設問は全て内容理解に関するものです。問6の設問に3～6語の条件作文があります。語数は少ないですが、内容としては比較的自由に書くことができるものです。

入試までに準備しておくこと

文法問題は2年生の範囲からも広く出題されます。読解問題の難度が高いため、文法問題ではきちんと点を取る必要があります。万遍なく復習をするとともに、整序作文の問題を数多く解きましょう。

読解問題では1つの文章の中に様々な情報が含まれるので、速く正確に読むことが要求されます。また、内容一致の問題では選択肢の順番と本文の流れが一致しないため時間がかかります。日頃から多くの長文に触れ、読むスピードを上げましょう。長文では物語文、科学に関する論説文など幅広く出題されますので、様々なジャンルの長文を読みましょう。また、傾向の似ている湘南の過去問も解いて慣れておくともよいでしょう。

条件作文は近年独自問題でますます出題が増えている分野です。今年は記述が増えたこともあり、対策は欠かせません。文法の復習をきちんとするとともに、短文を書く練習や和文英訳の練習をしておきましょう。

リスニングは、継続的に英語を聞き取る練習が必要です。英検準2級・3級程度の聞き取り問題で練習することが効果的です。

英語		分野別出題形式	22年度	21年度	20年度
リスニング	記号	内容理解(含英問英答)	8	8	8
	記述	英問英答			
		和問和答			
		小計	8	8	8
語彙	記号	綴り			
		語形変化			
		発音・アクセント			
		小計	0	0	0
文法	記述	適語(句)選択			
		適語(句)補充			
		語順整序	4	4	4
	記号	部分英作			
完全英作					
正誤問題・誤文訂正		8	8	4	
		小計	12	12	8
読解	記号	内容理解(含英問英答)	2	8	8
		内容一致	10	10	6
		段落・文整序	2	4	
		段落・文・節挿入	2	4	4
		適語(句)・文選択	8	2	12
	記述	語順整序			2
		内容理解(指示語など)			
		語形変化			
		空所補充			
		和文英訳			
記述	部分英作				
	英問英答				
	条件英作	6	2	2	
	和問和答				
		小計	30	30	34
		合計点	50	50	50

神奈川 横浜翠嵐 国語 出題傾向と対策

出題傾向の分析

例年通りの大問 4 題の構成で、総小問数は 26 題でした。

問一は、小説文からの出題でした。主人公の心情を、象徴的な表現で暗示している文章です。表現の意味や語句の意味が理解できていることを前提として、主人公の心情が問われました。

問二は環境をテーマにした論説文からの出題で、文章中の傍線部の漢字の読み書きが 4 題問われました。文章中の空欄を補充する問題、35 字以上 45 字以内の記述問題(条件作文)が 1 題出題されました。文章中の傍線部から離れた箇所が解答の根拠となる出題が多かったようです。

問三は H21 年度と同様、詩の鑑賞文が出題されました。詩の中の空欄を補充する問題は難しく、鑑賞文をよく読んで答える必要があります。

問四は、H22 年度に初めて導入された「独自間共通問題」の古文です。大問 4 題構成になってから出題されなくなっていた記述問題が復活し、昨年度に較べて解答に時間を取られたはずです。主語を問う問題、傍線部の意味を問う問題が 1 題ずつ、残り 2 題は本文の内容を問う問題でした。解答に時間はかかるものの、昨年より難しくなったわけではありません。

国語 出題分野一覧表		22年度		21年度		20年度	
		記号	記述	記号	記述	記号	記述
漢字 語彙	漢字の読み取り		1		2		2
	漢字の書き取り		3		3		3
	四字熟語・語彙						
文法・表現							
敬語							
資料を含む文章							
小説	心情を問う設問	6		2	2	4	
	場面を問う設問	4		4		2	
	語句			2		2	
	本文との正誤問題	2		2		2	
論説	接続語の補充						
	傍線部の理由を問う設問			2		2	
	傍線部の説明を問う設問	4		4		8	2
	抜けている表現の補充	4		4		5	
	語句						
鑑賞文	本文との正誤問題	2		2		4	
	抜けている表現の補充	2		1			
	詩の内容を問う設問			4	2		
	傍線部の説明を問う設問	6	2				
古文	主語を問う設問	2					
	仮名づかい・語彙						
	傍線部の理由を問う設問			2		2	
	傍線部の説明を問う設問	2		2		4	
	本文の内容を問う設問	2		2		2	
本文との正誤問題	2		2				
条件作文			6		6		6
合計			50		50		50

入試までに準備しておくこと

漢字の書き取りは小中学校で学んだものから出題されますが、知っている漢字が使われていても、知らない熟語であるために字を思い浮かべることができず、解答できないことがあります。「ソウゾウ」など、複数の漢字があてはまる熟語も出題されます。漢字練習のときには、例文の意味や熟語の意味も覚えるようにしましょう。小説文では、心情を表す象徴的な表現を読解する力が求められます。登場人物の心情を象徴する方法を学習しておく、読解が楽になるでしょう。また、鑑賞文の分量が他校にくらべて多いので、韻文の知識もしっかり復習する必要があります。全体を通して、分量が多く、解答に時間がかかります。文章を素早く読解できるように、さまざまな文章を日ごろから読み慣れておくといでしょう。

神奈川 横浜翠嵐 数学 出題傾向と対策

出題傾向の分析

出題構成は昨年度と同様に大問6題、うち1題が独立小問集合形式で、総小問数は17題でした。

近年、問1は6問の小問集合となっていて、最初の3問は単項式・多項式の乗除、平方根の計算、2次方程式の計算が出されています。残りの3問は年度によって異なり、今年は速さに関する難問が出題されました。問2は例年通り関数の出題があり、今年も面積に関する問題が出されています。この単元は今年も他の独自問題出題校と共通の問題になっていますが、昨年度の関数の共通問題と比較して難易度が上がっています。問3では、確率が大問として出題されました。さいころ2個を使う問題なので複雑な計算をする必要はありませんでしたが、1つ1つの事象を丁寧に検証する根気強さが必要でした。問4は規則に従ってカードを並べ替える問題でした。この問題では、日頃の練習で身につけた知識を利用できるかどうかではなく、その場でじっくり考えることができるかどうかが問われました。問5は空間図形からの出題でした。毎年難易度が高めの分野ですが、今年もその傾向は変わりませんでした。また、昨年度は横浜翠嵐独自の空間図形の問題を出題していましたが、今年はこの空間図形の問題も他の独自問題出題校と共通の問題になっています。問6は円と直線に関する問題で、全文記述形式の証明問題が出題されました。こちらも、他の独自問題出題校と共通の問題でした。

入試までに準備しておくこと

昨年は大問6題のうち2題が他の独自問題出題校と共通の問題で、この2題の難易度は他の4題と比較するとあまり高くありませんでした。一方、今年は大問6題のうち3題が独自問題出題校共通の問題となっていますが、この問題の難易度が昨年度より高くなっています。特に関数と空間図形の難問については経験が必要なので、神奈川県独自の入試以上のレベル、すなわち難関国私立高校や都立独自入試の問題に触れておくことが望ましいです。

証明やその他の単元の問題の対策も、横浜翠嵐の過去問を解くのはもちろんのこと、他に独自問題で入試を行っている神奈川県の学校の過去問や、他の都道府県公立高校の過去問など、様々な問題に触れておきましょう。

領域	内容	配点		
		22年度	21年度	20年度
数と式	数の性質・表現	3		3
	数の計算			
	式の計算	2	2	
	平方根	2	2	5
	多項式の乗法			2
	因数分解			
	小計	7	4	10
方程式	1次方程式			
	連立方程式			
	2次方程式	2	3	3
	方程式の応用	3	3	
	不等式・不等式の応用			
	小計	5	6	3
関数	比例と反比例		3	
	1次関数			
	2次関数			
	変化の割合・変域			3
関数と図形	直線と曲線	3	3	3
	関数と図形	3	5	5
	小計	6	11	11
三角形・四角形	角度			
	作図			
	合同			
	相似			
	三角形		6	3
	平行四辺形			
円と平面図形	円周角の定理	5	3	3
	円と弧・弦・接線			
	線分、線分比		3	3
	面積、面積比			3
	点の移動と図形			
空間図形	線分、線分比	3	5	6
	面積、面積比	6	3	
	体積、体積比			
	点の移動と図形			
	回転体、球			
	小計	14	20	18
確率	場合の数			
	確率	9	6	6
総合問題	数と式			
	図形		3	
	その他	9		2
	小計	18	9	8
	合計	50	50	50